

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	日本語
科目基礎情報						
科目番号	3E20		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	適宜必要な資料及びプリントを配布する。					
担当教員	鴨川 都美					
到達目標						
1 日本語の基礎を再確認し、より円滑な日本語表現を獲得すること。 2 ビジネスマナーを意識した、高専卒業生にふさわしい社会人基礎力・表現力を身につけること。 3 日本文化の一つとして日本文学の美しさを理解し、鑑賞する力を備えること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本語によるコミュニケーションを円滑に行える能力を持つ。		日本語によるコミュニケーションが不自由なく行える能力を持つ。		日本語によるコミュニケーションが困難である。	
評価項目2	日本語について、高専生にふさわしい確かな読解力と豊かな表現力を備えている。		日本語について、高専生にふさわしい読解力と表現力を備えている。		高専生にふさわしい日本語の読解力・表現力を備えていない。	
評価項目3	日本の社会事情・習慣・文化等について積極的に理解に努め、受け入れる姿勢を持っている。		日本の社会事情・習慣・文化等について理解に努め、受け入れる姿勢を持っている。		日本の社会事情・習慣・文化等について理解に努め、受け入れる姿勢が見られない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	留学生を対象とした、日本語学習の授業である。受講生それぞれの日本語能力を見極めたうえで、より高いレベルでの日本語能力が身につくことを目指す。最終的には、日本の高専で学んだという経歴にふさわしい豊かな語彙と正確な表現力・読解力を身につけることを目指す。					
授業の進め方・方法	前期の15回では、日本語の習得状況を確認し、漢字・慣用句・ことわざ・品詞・文型などのブラッシュアップを目指す。後期の15回では、新聞・文学作品・評論・詩・短歌・俳句など様々な形式の日本語に触れ、鑑賞する。DVD、音楽CDなども活用したい。それらの中から、日本の社会事情や文化についても理解を深められるような展開を考えている。また、発表やディスカッションの場も多く設けたい。					
注意点	前期・後期の試験結果(70%)と、発表・課題等の成果(30%)で総合評価を確定する。必要に応じて再試験を実施する。60点以上を合格とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 自己紹介等簡易スピーチ実施		授業の狙い、評価方法、到達目標などについて理解する。	
		2週	文法 1 新聞を読む 2		慣用句を理解する。 新聞記事の文章や用語に慣れ、正確に内容が理解でき、自分の意見を持つことができる。	
		3週	文法 2 新聞を読む 2		故事成語を理解する。 新聞記事の文章や用語に慣れ、正確に内容が理解でき、自分の意見を持つことができる。	
		4週	文法 3 随筆を読む 1		ことわざを理解する。 随筆の文章で日本人の感性や暮らしぶり、季節感を知る。	
		5週	文法 4 随筆を読む 2		品詞の働きを知る。 随筆の文章で日本人の感性や暮らしぶり、季節感を知る。	
		6週	文法 5 短歌・俳句に親しむ 1		品詞の働きを知る。 短歌・俳句のルールを知り、季節感を磨き、語彙を増やす。	
		7週	文法 6 短歌・俳句に親しむ 2		品詞の働きを知る。 短歌・俳句のルールを知り、季節感を磨き、語彙を増やす。	
		8週	文法 7 評論を読む 1		和語・漢語・外来語の違いや意味を知る。	
	2ndQ	9週	文法 8 評論を読む 2		敬語を正しく身につける。 段落の仕組み、文の流れをつかむ。	
		10週	文法 9 小説を読む 1		敬語を正しく身につける。 段落の仕組み、文の流れをつかむ。	
		11週	文法10 小説を読む 2		様々な文の型を理解する。 短編小説を読み、人生観や人間観を導き出す。	
		12週	文法12 小説を読む 3		様々な文の型を理解する。 短編小説を読み、人生観や人間観を導き出す。	
		13週	文法13 小説を読む 4		様々な文の型を理解する。 短編小説を読み、人生観や人間観を導き出す。	
		14週	文法14 日記を読む 1		日本文学史の概要を知る。 日記文学の魅力を知り、自らも執筆を体験する。	
		15週	文法15 日記を読む 2		日本文学史の概要を知る。 日記文学の魅力を知り、自らも執筆を体験する。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	意見文を書く 1		サンプル作品を読むことで、意見文の書き方をイメージする。	

		2週	意見文を書く 2	テーマに従って意見文を執筆、800～1200字で書き上げる。
		3週	意見文を書く 3	執筆した意見文を相互に交換して添削しあう。
		4週	ディスカッション 1	望ましいディスカッション、望ましくないディスカッションについて考える。
		5週	ディスカッション 2	テーマについて、ディスカッションを実践し、振り返りを行い、改善に努める。
		6週	ディスカッション 3	テーマについて、ディスカッションを実践し、振り返りを行い、改善に努める。
		7週	プレゼンテーション 1	800字程度で起承転結の整った発表原稿を作成する。
		8週	プレゼンテーション 2	姿勢・態度、話す速度、表情、声の大きさ、発音の明瞭さを意識して理想的な発表のスタイルを身に着ける。
	4thQ	9週	プレゼンテーション 3	姿勢・態度、話す速度、表情、声の大きさ、発音の明瞭さを意識して理想的な発表のスタイルを身に着ける。
		10週	手紙を書く 1	手紙の形式、手紙にまつわるルールやマナーを知る。
		11週	手紙を書く 2	実際に手紙を書き、封筒にあて名書きをし、投函する。
		12週	メールで伝える	メールでのやり取りのルールやマナーを知る。
		13週	電話で話す	固定電話、職場での電話対応で必要なルールやマナーを知る。
		14週	D V D鑑賞 鑑賞文執筆 1	作品鑑賞により、日本人の暮らしや考え方、慣習に触れる。
		15週	まとめ	一年間を振り返り、自身の歩みを総括する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前3
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前3
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	前3
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前6
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前7
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前2
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前8,前9
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	後10,後11
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	後1
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	後2,後7
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	後8
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	後8,後9
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	後4,後5
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	後6
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前4,後14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	0	70
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	0	0	0	0	0	30